

英語形容詞と対応する日本語表現 その1 基礎英語クラス指導の観点から[†]

中村 その子^{*1}

多摩大学経営情報学部^{*1}

本稿では、TOEIC450点程度のスコアを持つ大学1年生、2年生の基礎英語コミュニケーションクラスにおいて、学生の英語表現の幅を広げるために導入した「英語形容詞に焦点を絞り、それを日本語の視点から見ることによってより自然な英語表現を身に付ける」という授業活動について、その元となった考察と教育効果、教室活動について述べる。

キーワード: 英語形容詞、英作文

Key Words: English adjective, English composition

1. 日英語における形容詞

英語においても日本語においても、「形容詞」という品詞でくくられる大きな語群がある。それぞれの特徴を以下に述べる。

英語形容詞

いくつかの問題も指摘されてはいるが、以下の枠組みの中に入れることができる語(句)が原則形容詞と考えられる。(現代の英文法7形容詞、研究社より)比較的長音節の形容詞では特有の語尾が観察されるものの、特に音節の短い形容詞では、日本語のように決まった語尾があるわけではないので、形態から形容詞であるかどうかを判別することは難しい。

- (1) NP seem
- (2) very
- (3) Det.....N
- (4) Adj and/or

2012年2月10日受理

† Sonoko NAKAMURA^{*1}: A Comparative Study of English and Japanese Adjectives for Effective Writing

School of Management & Information Sciences, Tama University, 4-1-1 Hijirigaoka,
Tama-shi, Tokyo, 206-0022 Japan

-able, -an, -ible, -al, -ful, -ic, -ish, -ive, -less, -like, -ous で終わる語や名詞に-y の付いたもの、などが必ずとは言えないが形容詞語尾である。

日本語形容詞

イ形容詞とナ形容詞があり、(ナ形容詞を形容動詞として立てるかどうかの議論に関してはここでは踏み込まないこととする。)日本語では、国文法で言うところの、未然形、連用形、終止形、連体形、假定形、(命令形はない)で活用する。イ形容詞は終止形と連体形が同じだが、ナ形容詞では、連体形で「ナ」が消失し、終止形で「だ」が現れるので、特に漢語(外来語)起源のナ形容詞と名詞との境界がわかりにくくなる場合がある。

例	正しい	例	おだやかな
未然形	正しかろ		おだやかだろ
連用形	正しかっ	正しく	おだやかだっ おだやかで おだやかに
終止形	正しい		おだやかだ
連体形	正しい		おだやかな
假定	正しけれ		おだやかなら

日英両言語において、形容詞は語数も多く使われる頻度も高い主要品詞であり、英語において形容詞で表現される内容を日本語に翻訳する際、多くの場合は日本語の形容詞を用いることができる。

Her mother and aunt are both very beautiful.

彼女の母も叔母も美しい。

This kitten is so cute.

この子猫はすごくかわいい。

We have to offer a safe environment.

わたしたちは安全な環境を提供しなければならない。

His English pronunciation is perfect.

彼の英語の発音は完璧だ。

しかしながら、様々な英語形容詞と、それに対応する自然な日本語訳を観察すると、必ずしも上記のように英語形容詞が単純に日本語形容詞になるとは限らない。主として以下のような形容詞以外の品詞が用いられた様々な日本語表現が現れる。(詳細は2章以降に述べる。)

- (1) ハガ文の一種と考えられる構文における名詞と形容詞の組み合わせ
- (2) 外見上は存在文の「～がある」「～がない」が用いられる表現

- (3) 動詞の「～テイル」形を始めとする動詞表現
- (4) 名詞+断定の助動詞「だ」が用いられるもの
- (5) 日本語形容詞が命令文にしにくいことによる日英表現のずれ

このことは、言い換えれば、英語形容詞表現を自然な日本語に訳そうとする場合には、機械的に英語形容詞を日本語形容詞にするという訳し方ではなく、それ以外の品詞による表現の可能性を考える必要がある、ということになる。逆に、英語にしようとする日本語にまったく形容詞がなくても(別の言い方をすればネイティブの日本人としては動詞や名詞を使う方が極めて自然に思われる場合も)英語では形容詞が使える可能性がある、または使った方が英語としては自然なことが十分にあり得る、ということになる。

2. 日本語表現の比較と観察

本章では、上記(1)~(5)の対応について記述する。

2.1 ハガ文の一種と考えられる構文における名詞と形容詞の組み合わせ

「～ハ～ガ+述部」という表現形式において、述部が基本的なイ形容詞(いい、悪い、多い、少ない、強い、弱い、高い、低い、深い、浅い、重い、軽い、長い、短い、安い、など)であり、「～ガ」より後ろの部分がある程度のコロケーションをなしていると考えられるものは、「～ガ」より後ろの部分をもとめて一語の英語形容詞で表現したほうが自然な英語表現になる傾向がみられる。

この文は「象は鼻が長い」に代表されるハガ文の一種であると考えられるが、その後半部分全体が英語の一語形容詞に対応しているので、後半部分をばらばらにせず、そのまま一語形容詞で表現するように試みた方が英文のすわりがよい。(この形式に限らず、ハガ文そのものが、英語に直訳できないこと—* An elephant is its trunk is long.—は多くの研究者に指摘されていることであるが、ハガ文自体の分類や検討については本稿では扱わない。)日本語のこの構文の後半部分は、ある程度の結束力があるコロケーションかイディオムを形成しており、それをばらばらにして解釈したり翻訳したりするよりも全体の意味を捉える方がいいと言えるだろう。たとえば「愛想がいい」という表現は「愛想」の内容や質のよしあしに直接言及しているのではなく、「愛想がいい」ということによって、「いつもにこやかで人に対して明るく親切に接する性質」全体を述べているものである。また「頭がいい」という場合の「頭」は知的水準を表し、全体で「利口」だ、という意味になっていて、髪形のよしあしや主語の頭部を何かに使うのに都合がいいか悪いかを述べているのでは通常ない。この二つにおいては「愛想が悪い」「頭が悪い」が可能なので、完全にイディオムとして固定していないが、「威勢がいい」「気前がいい」などは「?威勢が悪い」「?気前が悪い」が言いにくいことからよりイディオムに近い性質を持っていると思われる。

例

幸子は愛想がいい。	Sachiko is amiable.
次郎は頭がいい。	Jirou is smart.
三郎は威勢がいい。	Saburo is high-spirited.
うちの大工は腕がいい。	Our carpenters are outstanding.
今年は運勢がいい。	I am lucky this year.
この部屋は風通しがいい。	This room is airy.
うちの会社は気前がいい。	Our company is generous.
この方法は効率がよりよい。	This way is more effective.
うどんは消化が悪い。	Udon is indigestive.
土曜日は都合が悪い。	This Saturday isn't convenient for me.

気が荒い (fierce)	頭が硬い (obstinate)	感覚が鋭い (sentient)
了見が狭い (narrow-minded)	気が小さい (timid)	我が強い (assertive)
腰が低い (humble)	欲が深い (greedy)	気が短い (impatient)
気が弱い (timid)	鼻が高い (proud)	

2.2 ハガ文の一種と考えられる構文における名詞と形容詞の組み合わせに関する学生への指導と説明 学生への指導と説明においては、以下のように実施している。

「形容詞」とはどんなことばでしょうか。「形容詞」には大きな二つの役割があります。ひとつは名詞の前、またはまれに後ろに置かれてその名詞の内容を説明すること（限定用法）、もうひとつは述語として、日本語だったら「です」、英語だったら主として「be」といっしょになって色々な表現を形作ること（叙述用法）です。日本語の形容詞と英語の形容詞は共通の部分も多く、日本語の形容詞表現を英語の形容詞を使って表現することはさほど難しいことではありません。

しかし、ほぼ同等の意味内容を表すのに、日本語では形容詞を用いるのに、英語では用いない場合、逆に日本語では形容詞を用いない表現でも英語では用いる場合があります。ここでは後者の方の叙述用法に焦点をあてて、日本語の視点からみた英語形容詞のよりよい使い方を考えてみたいと思います。日本語母国語話者がより英語らしい英語表現を身に付ける、ということを考えてとき、「日本語では形容詞が用いられないが英語では用いられる」場合に学ぶべき多くのヒントが隠されているからです。

ではまず、日本語と英語における形容詞の位置づけとその共通部分を見てみましょう。日本語の形容詞は名詞の前に置かれると「～い」か「～な」で終わる、という特徴を持っていますが、英語形容詞にはそういう性質はありません。比較的音節の長い形容詞は -able, -an, -ible, -al, -ful, -ic, -ish, -ive, -less, -like, -ous、名詞 + y, など特有の語尾で判別することも可能ですが、good, bad, small, big, tall, short, light, heavy, deep, shallow などご存知のように基礎的な短い形容詞はその

形から品詞を判別することはできません。さて、英語の形容詞は主として be 動詞、あと一部の限られた動詞、look, sound, taste, become, get, seem としか一緒に使えません。一部のイディオム表現には別の動詞も使われます。turn red, fall asleep, go mad, come alive, stay young などです。

今回授業で取り扱うのは形容詞が述部になった場合ですが、「ナ形容詞」の場合述部になると「ナ」が消えてしまい、名詞と区別がつきにくくなるのでまずその点を注意しましょう。以下の例を見てください。

リンダは <u>正直</u> です。	Linda is honest.
<u>親切</u> です。	kind.
<u>真面目</u> です。	serious.
<u>幸せ</u> です。	happy.
<u>わがまま</u> です。	selfish.

下線部の単語を名詞に持ってくると、正直な(人)、親切な(人)、真面目な(人)、幸せな(人)、わがままな(人)ですね。このように「な」が出てくる場合は英語の「形容詞」= 上記参照 = を使うように注意し、名詞をそのまま置かないようにしましょう。

*Linda is honesty.	Linda is honest.
(正直)	(正直な)
*Linda is kindness.	Linda is kind.
(親切)	(親切な)
*Linda is seriousness.	Linda is serious.
(真面目)	(真面目な)
*Linda is happiness.	Linda is happy.
(幸せ)	(幸せな)
*Linda is selfishness.	Linda is selfish.
(わがまま)	(わがままな)

英語の文章を生産するときに、ある語の品詞が形容詞なのか名詞なのかを意識することはとても大切なことです。上記左列は日本語の感覚だとどちらでもいいように思えますが、原則英語では受け入れられません。(著者注：これは TOEIC の適語選択問題も意識したものである。)

さて、話を本筋に戻しましょう。あなたの頭に浮かんだ日本語の文章の中に、「は」と「が」が並んでいて、さらに最後が、「いい(よい)、悪い、多い、少ない、強い、弱い、高い、低い、深い、浅い、重い、軽い、長い、短い、安い」などの非常に基本的な「~い」で終わる(過去の場合は「~かった」になります。)形容詞がある場合、その形容詞を単純に訳した、good, bad, many, a little, strong, weak, high, low, deep, shallow, heavy, light, long, short, cheap, を使うのをちょっと思

いとどまって「が」の前にある語と形容詞をひとまとめにして考えてみましょう。日本語には「主語は+が+基本的な形容詞」というある程度固定した連なりが非常に多くあり、それによって多彩な表現ができることを改めて認識してください。

幸子は愛想がいい。	Sachiko is amiable.
次郎は頭がいい。	Jirou is smart.
三郎は威勢がいい。	Saburo is high-spirited.
うちの大工は腕がいい。	Our carpenters are outstanding.
今年は運勢がいい。	I am lucky this year.
この部屋は風通しがいい。	This room is airy.
うちの会社は気前がいい。	Our company is generous.
このやり方の方が効率がよい。	This way is more effective.
うどんは消化が悪い。	Udon is indigestive.
土曜日は都合が悪い。	This Saturday isn't convenient for me.
京子は感受性が強い。	Kyoko is very sensitive.
この仕事はストレスが多い。	The job is stressful.
あそこの部署は無駄が多い。	That section is wasteful.
メインストリートは人通りが多い。	The main street is busy.

(注1)

2.3 外見上は存在文の「～がある」「～がない」が用いられる表現

日本語では、「～(に)は～がある(ない)」という形で、話題となっている人やモノが何かを広い意味で所有していることを表す文型がある。

わたしには家族がある。
 彼には見どころがある。
 さゆりさんには素直さがある。
 うちの主人には思いやりがない。
 日本には石油資源がない。
 部長は毎週会議がある。

一口に所有と言っても、家族関係や、資質、スケジュールなど様々であるが、このうち「がある(～がない)」の前に特徴や性質や資質を述べる抽象名詞が来た場合、その「“抽象名詞”がある(がない)」の部分を一語の英語形容詞と原則 be 動詞で表現できることが多い。どちらが歴史的に先かという語源論は別にして、英語の抽象名詞には、多くの場合それとペアをなす語尾だけが違った形容詞があるが、日本語では、抽象名詞を形容詞にする(形容詞的に使う)方法が複数あり、その一つが、「抽象名詞+が

ある(がない)」という連なりを作ることだと考えられる。日本語抽象名詞の形容詞化にはこのほかに、「的(な)」をつける、「の」を付ける、「上(の)」をつける、などの別の方法もあるが、この存在文形式が大きな役割を担っている。

わが国の国王は威厳がある。	Our king is dignified.
この添加物は害がない。	This additive is not harmful.
博は思いやりがある。	Hiroshi is considerate.
この町は活気がある。	The town is lively.
わが社の製品には競争力がない。	Our products are not competitive.
部長は決断力がない。	Our department manager is indecisive.
彼のプレゼンは説得力がある。	His presentation is persuasive.
その製品は耐久性がある。	That product is durable.
かれは若いが分別がある。	He is young but sensible.
このクラスの学生はやる気がある。	The students of this class are motivated.

2.4 外見上は存在文の「～がある」「～がない」が用いられる表現に関する学生への指導と説明 学生への指導と説明においては、以下のように実施している。

「 (に)は××がある。」という文で、××の部分、特徴、性格、性質、資質に関係の深い抽象名詞だった場合、その文は英語では “ is(not) 形容詞 ” でスマートに処理できる可能性があります。まず、抽象名詞××を辞書で引いてみてください。その見出しの前後を見て「××がある」という表現があったらそれが形容詞かどうかを確認してください。もし「××がある」という表現が見つからなかったら、抽象名詞××の形容詞形を探してみてください。(学生に該当する形容詞を辞書で引かせる。その間教室を回り、適宜、形容詞を正しく選んでいるか観察したり必要に応じて助言したりする。) 名詞××がもともとなった形容詞が見つかったらそれを is (not) ××の××のところに入れてみてください。

今回対象としたクラスでは、「わが社の製品には競争力がない。」を There is not competing power of(in) our product. と訳す学生はいなかったが、多くの学生がまず、競争力という名詞をそのまま英語名詞 competing power, competitiveness などと訳すところから始めてしまうので、Our company is no competing power. Our company has no competitiveness. という答えが多く出て、競争力がある、を形容詞 competitive にすることには思いが及ばない様子だった。指導後は、辞書の助けがあれば該当する形容詞にたどりつくことができるようになり、さらに、一度要領を理解すれば、構文自体は「主語 + is (not) + 教えられた手順で見つけた形容詞」で完成してしまうので、2.3 挙げた種類の英作文は容易にできるようになった。

2.5 動詞の「～テイル」形を始めとする動詞表現

日本語「～テイル形」には「～テイタ」という過去形があるが、本節では便宜上「～テイル形」に絞って話を進める。

「日本語動詞テ形 + イル = ~テイル形」は、英語教育の初歩段階で現在進行形 is(are) + 現在分詞として導入される。「~テイル形」は今何かをしている最中を意味する、として単純に片づけられがちだが、実は多くの研究者が指摘しているようになりに複雑な意味体系を持っており（下記参照）日本語テイル形と英語現在進行形が対応するのは主として「動作主が自分の意志で目に見えやすい形で活動している」ときである。それ以外の「~テイル形」を英語で表そうとする場合は英語現在進行形はほとんど現れず、別の表現形式を用いる必要がある。

動作の継続	今 テレビを見えています。 5時から試験勉強をしています。
結果の状態	電気が消えています。 帽子をかぶっています。
習慣、繰り返し	毎朝ラジオ体操をしています。
所在・所属・職業	横浜に住んでいます。 兄は教師をしています。
所有・知識	車を持っていますか。 彼の電話番号を知っていますか。
外見・性質	あの人はやせていますねえ。 妹は母に似ています。
経歴・記録	彼は前にも事故を起こしています。 彼女は4年前に大学を卒業しています。

新・はじめての日本語教育 高見澤 孟 より

このうち、モノやコトが主語になった状態を表す「テイル形」、金田一京介による第四種の動詞（つねに~テイルの形でしか用いられない一部の動詞）、人間が主語でもその人の肉体的な状態を表す「テイル形」にはほとんど英語形容詞が対応しており、現在進行形で表現するのは難しい。「テイル形」=現在進行形、と機械的に考えることのないように、「~テイル形」には人間が自らの意志で行う活動をあらかずものと、人間や人間ではないものの状態を表す動きのない「~テイル形」があることを気づかせ、後者は英語形容詞の使用を考えるように指導した。

2.6 動詞の「~テイル」形を始めとする動詞表現に関する学生への指導と説明

学生への指導と説明においては、以下のように実施している。

「彼女は走っています。」「彼女は手紙を書いています。」「彼女は庭で遊んでいます。£はどう英語にしたらよいでしょうか。すぐわかる通り、She is running. She is writing a letter. She is playing in the garden. です。いわゆる現在進行形というものです。現在進行形は主として、人間を主語にしてその人の意志で目に見える形で行われている動作や行為を表現します。「~しています。」=現在進行形という考え方は間違っていないですが、「~しています。」という表現が常に現在進行形になるとは限りません。ちょっと注意が必要です。

以下の例をみてください。以下の例には人間が走る、書く、遊ぶ、というような「意志を持った動き」がありません。まな板の上の腐った魚も洗濯機の中に放り込まれているシャツも錆びた古いナイフも自分から意志を持って動いたりしていません。痩せた彼女はじっとしても痩せていて、自分の意志でみなさんの目の前でどんどん細くなっているわけではありませんし、活動しているわけではありません。よく「状態」は進行形にならない、というように言われますが、その説明だけだと少し分かりにくいかもしれません。同じ「～テイル形」でも、人間が自らの意志で行っていて、それが周りの人から見える活動なら現在進行形、人間が自らの意志で行っている活動ではない、動きのない性質や状況、モノの状態は英語形容詞を使うとうまく表現できることが多いのです。

動きのない「～している」は「～している」の形を「～する」の形に戻して和英辞書を引き、見出しのすぐ下だけでなく例文の部分全部見て、be 動詞と一緒に用いられた形容詞の表現を探すようにするか、「～する」の形には戻さずに「～している」の形のまま、辞書の見出しや例文で be 動詞と一緒に用いられているものを探るように心がけてみてください。

例	この魚は腐っている。 This fish is rotten.
	シャツが汚れている。 My shirt is dirty.
	ナイフが錆びている。 The knife is rusty.
	わたしたちの考えは異なっている。 Our ways of thinking are different.
	彼女は痩せている。 She is lean.
	君はずいぶんと気取っているんだね。 You are so conceited.
	このバナナはまだ熟していない。 These bananas are not ripe yet.
	あの人の話はばかげている。 His story is ridiculous.
	その男の声はつぶれている。 His voice was husky

このパターンが用いられた日本人が形容詞を使用すべきだとは気づきにくい日常英語表現を挙げておきます。

お風呂入ってるわよ。

The bath is ready.

洗濯物乾いてる？

Is the wash dry?

雨どいががたがたしている。

The rain gutter is loose and wobbly.

ビルの基礎にがたがきている。

The foundation of the building is shaky.

ホッチキスの針が入っていない。

The stapler is empty.

デスクトップがごちゃごちゃしている。

The desktop is all messy.

投資が冷え込んでいる。

Investment is sluggish.

怒っているんだ。

I ' m angry.

窓があいている。

The window is open.

君は間違っている。

You ' re wrong.

平日は6時まで営業しています。(あいています。)

We are still open till six on weekdays.

土曜日はあいていますか。(やっていますか。営業していますか。)

Are you open on Saturdays?

データがそろっていない。

The data is incomplete.

数字が合っていない。(間違っている。)

The numbers are incorrect.

今ドタバタしていて。

The traffic is so heavy now.

今の時間は道がとても混んでいる。

My schedule is tight today.

今日は予定が詰まっています。

This room is vacant.
この部屋は空いている。
His story is ridiculous (absurd).
彼の話はばかげている。
He ' s been edgy today.
きょう、彼気が立ってるよ。
Jane is slim (fat).
ジェーンは痩せている (太っている)。
Our sales network is nationwide.
わが社の販売網は全国に広がっています。

日本語では漢字二字を音読みにして組み合わせた漢語名詞に「～する」をつけて動詞にすることがよくあります。この「漢語+する」が「～している」で用いられ、それが人間や動物の行動でなく、具体的な動きがあまり感じられない状態の場合も形容詞の使用を考えてみてください。

政局は安定している。
The political situation is stable.
駅は非常に混雑していた。
The station was awfully crowded.
緊張が高まり事態が切迫している。
The situation is urgent as tension is growing.
彼女は妊娠している。
She is pregnant.
彼は破産している。
He is bankrupt.
彼は家族から独立している。
He is independent from his family.

最後に、参考までにお話しますが、日本語の「～テイル」は実はかなり複雑で、今やっていることを表す、というような単純なものではありません。(以下を板書またはプリントで提示)

動作の継続	今 テレビを見ています。 5時から試験勉強をしています。
結果の状態	電気が消えています。 帽子をかぶっています。
習慣、繰り返し	毎朝ラジオ体操をしています。 毎日家を8時に出ています。
所在・所属・職業	横浜に住んでいます。 兄は教師をしています。
所有・知識	車を持っていますか。 彼の電話番号を知っていますか。
外見・性質	あの人はやせていますねえ。 妹は母に似ています。
経歴・記録	彼は前にも事故を起こしています。 彼女は4年前に大学を卒業しています。

すでにお話したように、英語の現在進行形で簡単に表現できるのは最初の二つと、He is wearing a hat. ぐらいでしょうか。あとは他のいろいろな表現方法を使うほうがいいと思います。「電気が消えている」は be out のように前置詞を使うこともできますし、習慣・繰り返しは英語では現在形です。所在・所有表現はわかると思うのでここでは省略しますが、経歴・記録は英語ではそのまま過去形です。この例の中で形容詞を用いるのは、ここで学んだように「あの人はやせていますねえ」= She(He) is lean. です。「似ています」は resemble という動詞もありますが、進行形にはできませんし、前置詞の to や with は使いませんから注意。また similar や alike などを使うことができます。(いくつかの例文を板書)

2.7 日本語形容詞が命令形を作りにくいことから生じる日英表現の差

日本語形容詞は用言として活用するが、動詞のような確立した命令形がない。イ形容詞では語尾のイをクという副詞形に変えて、ナ形容詞では語尾のナをコという副詞形に変えて(またはデに変えて)「ナル」「アル」などの動詞を組み合わせて命令形を作ることができるが、それはすでに文法的には形容詞ではないし、日常生活ではあまり使われず、かなり文語的で固い表現になる。

美しくなれ
素直になれ
雄々しくあれ
穏やかであれ
平和であれ

一方、英語においても、形容詞でそのまま命令形を作ることにはできないが、be 動詞を用いることでできる命令、要求、依頼、願望、判断などの表現は日本語より多彩である。日本語話者は、そもそも母国語形容詞で命令に類する表現を作ることにはあまりないので、日本語で動詞を用いた命令、要求、依頼、願望、判断などの機能表現、それも日常慣用表現に近いような種類のを英語の Be と形容詞で表現することは難しい作業（思いつかない、もしくは想像しにくいこと）で、いわゆる日英表現の発想のギャップに悩む部分になる。この種の表現は、英語の決め台詞として頭から覚えてしまっている学生もあり、それをやめさせたり批判したりする必要はないと思うが、be 動詞と形容詞が命令形になる、または助動詞とともに用いられて英語らしい表現ができる、ということを学生に気付かせる価値はあると思われる。約 70 人の学生にこのことを説明し、教員が説明する前にこの現象に気づいていたかと尋ねたところ、「はい」と答えた学生はいなかった。Boys, be ambitious. Be quiet. Be careful. などの決め台詞を知っている学生でも下記に挙げるような多様性には気づいていなかった。この「気づきにくい」という状況を考えると、仮に英語が Be..... という形でいろいろ命令文を作ることができ、助動詞と be + 形容詞で多彩な表現ができるということを例文提示で説明したとしても、下に挙げる日本文を与えてこれを英語の形容詞を用いて訳しなさい、という指示は学生を混乱させるものであると予想される。授業では、下記のような対比を示した教材を配り、まず学生たちに「気づかせる」ことに焦点を絞った。対比に目を通しある程度「気づいて」しまうと、いわゆる日本語には縛られない「英語らしい表現」であることを理解するのにさほどの困難は見受けられない。これらの表現は数が限られているので、Could you be more specific? に代表されるような定番表現は、和文英訳を訓練するよりも決め台詞として覚えさせる方向に持っていた方が効率的である。

Boys, be ambitious.

少年よ、大志を抱け。

Be nice to each other.

お互いに仲良くしなさい。

Be a good listener.

人の話はよく聞け。

Be sure to get a receipt.

必ずレシートを受け取ってください。

Be ready to answer the question.

いつでも質問に答えられるように

Be careful of what you say there.

そっちでは口のきき方に気をつけなさい。

Be good.

いい子にしなさい。

Be more confident.

もっと自信を持って
Be quiet
静かにしてください。
Be patient with him.
彼のことは多めに見てやってくれ。
Be careful.
気を付けて。
Be diligent about turning the light off.
こまめに電気を消してね。
Be yourself.
しっかりしろよ。
Please be brief.
手短かにお願いします。
Don ' t be ridiculous.
Don ' t be silly.
馬鹿なこと言わないで。
Don ' t be picky.
えり好みはするな。
Don ' t get emotional.
そんなに興奮しないで。
Don ' t be bossy.
威張るな。えらそうに指図するな。
Don ' t be so sure about it.
そんなにうまく行くとは限りませんよ。
Don ' t be so stubborn.
そんなに意地を張るなよ。
Don ' t be so defensive.
そんなに構えるなよ。
Don ' t try to be different from everybody.
やたらに目立とうとするな スタンドプレーはよせ。
Don ' t be conceited.
うぬぼれるな。
Don ' t be mean to me.
そんなに意地悪しないで。
Don ' t be stuck-up.

気取るな。

Please don't be formal.

他人行儀はやめてください。

It can't be true.

そんなばかな(ことがあってたまるか) まさか。

It could have been worse.

もっとひどいことになっていたかもしれない。不幸中の幸い。

It couldn't be better.

これ以上のものは望めない。

Things couldn't be worse.

これ以上悪いことは起こらない。最悪だ。

Could you be more specific?

もう少し具体的に説明していただけますか

How could you be so stupid?

なんでそんな馬鹿なことを言うんだ(するんだ)?

Get serious.

真面目にやれ

Don't get smart with me.

わたしに生意気な態度を取るな

You don't have to be so nervous.

そんなに緊張しないで、硬くならないで

You don't have to be so standoffish.

そんな水臭いこと言わないで

I was just trying to be funny

ちょっと受けをねらっただけです。

2.8 「be + 英語形容詞 + 特定の前置詞 + 目的語」という並びと日本語動詞との対応

英語では「be + 英語形容詞 + 特定の前置詞 + 目的語」という並びの形容詞叙述用法で、主語の思考、感情、性格、性質、性能、資質、資格などについて、目的語とのかかわりを述べながら言及する。同等の内容を日本語で表そうとした場合、動詞表現が適当であることが極めて多い。この表現形式で用いられる主たる前置詞は about, against, at, for, from, in, of, to, with で、どの形容詞とともに用いられるかがほぼ決まっている。ただし、どの形容詞にどの前置詞が用いられるかはある程度の傾向があるが、日本語母国語話者には想像が付きにくい面もある。そのため、学習者は、この形式を暗記しなければならない面倒なイディオムと認識しており、限られた頻出表現、たとえば different from や good at, familiar withなどを覚えて終わりにになっている傾向がみられる。確かにイディオム的な側面(形容

詞と前置詞の組み合わせが決まっている)もあるが、下記(1)にも述べるように、固定したイディオムではなく、英語ではこの形式が豊かに展開していることを学生に説明する必要がある。また、この形式は、目にしたものを辞書を使って訳すことには大きな問題がないが、自分から進んでこの形を使うことが学習者にとって負担、言い換えれば理解はできるが、運用が難しい、という点がある。ましてや日本語表現では動詞が使われているので、それをわざわざ形容詞表現にしようとは通常思わないだろう。確かに、学習者にとって膨大な量のこの形式を全部覚えることは大変なことであるが、以下を学習者に説明したい。

- (1) 「be + 英語形容詞 + 特定の前置詞 + 目的語」という連なりはたまたま出てきたイディオムではなく、英語では大きな位置を占める豊かな表現形式である。
- (2) 用いられる前置詞が限られており、どの形容詞にどの前置詞が用いられるかにある程度の傾向がある。
- (3) 対応する日本語表現はほとんどが動詞で、その意味で日本語の動詞表現が英語のこの形式で表現できる可能性に気づくことが重要である。
- (4) (3) をさらに詳述すれば、主語となる人間の思考、感情、性格、性質、資質、資格などについて、目的語との関わりを重視しながら述べるときに多く使われる。
- (5) 補足的になるが、この形式は、日本語のように動詞を使って表現することも可能なので(He knows Japanese culture well. = He is familiar with Japanese culture.) TOEIC などの英語資格試験に頻出するパラフレーズの学習にも役に立つもので中でも比較的よく用いられる表現を学ぶことは英語表現の幅を広げる、という意味でも有用である。

例

I am nervous about the job interview next week.

来週の就職面接のことを考えると緊張する。

This new medicine is effective against liver cancer.

この新薬は肝臓がんに効く。

I am bad (poor) at mathematics.

数学は不得意です。

Management executives should be accountable (responsible) for the business decision they make.

経営者は自らが下した経営判断の説明責任を持たなければならない。

His point of view is different from ours.

彼の意見は私たちのとは異なっている。

Many people are engaged in humanitarian activities here in Boston.

ここボストンでは多くの人々が人道活動に携わっている。

We were confident of our victory.

わたしたちは勝利に自信があった。

Some children are very sensitive to chemicals in the air.

空気中の化学物質に過敏な子供たちもいる。

The restorers are familiar with European antiques.

修復家たちはヨーロッパの骨董品に精通している。

2.9 「be + 英語形容詞 + 特定の前置詞 + 目的語」という並びと日本語動詞との対応に関する授業での説明と指導

まず、学生の多くが知っているであろう頻出表現を板書する。

Your opinion is different from mine.

I am good at mathematics.

He is familiar with Japanese culture.

次にこの文が下線部にある be + 形容詞 + 前置詞からなることを説明する。多くの学生が大学受験の時に「暗記した」記憶があるが、この表現が単なる暗記イディオムではなく、多くのことを表現できる可能性のある有用な、そして数も多い表現形式であることを説明する。そのあと以下に挙げるような日常生活で用いられる表現を前置詞別に説明して行く。説明するだけだと、学生にとっては刺激に乏しい授業になってしまうので、いくつかは和文英訳させるが、その後は例文から発展させた会話練習やペアワーク、ロールプレイ、エッセイライティングなどを行う。学習意欲のある学生には別途日本語のみを渡し、これを動詞を使わずに形容詞のこの形式で訳す練習をさせるとよい。

前置詞に主として about を用いる形容詞

そのニュースをうれしく思った。(glad)

I ' m glad about the news.

夫はわたしが以前どんな生活をしていたかにはまったく興味がなかった。

My husband was not curious about my previous life at all.

うちの大学の学生たちは日本経済を学ぶことに熱心だった。

The students of our university were enthusiastic about studying the Japanese economy.

前置詞に主として against を用いる形容詞

その当時円はドルに対して安定したレートを保っていた。(ドルに対して安かった = 円安だった。)

The yen was steady (weak) against the dollar at that time.

その弁護士は死刑反対をより積極的に訴えた。(outspoken)

The lawyer became more outspoken against the death penalty.

前置詞に主として at が用いられる形容詞

教授は勉強しない学生たちに腹を立てていた。

The professor was angry at the lazy students.

トムは経理には長けている。

Tom is good (clever) at bookkeeping.

前置詞に主として for が用いられる形容詞

この参考書はマーケティングリサーチを研究している学生にはとてもいい。

This reference book is appropriate (ideal) for students who study marketing research.

この新開発の装置は体の不自由な方には便利です。(convenient)

The newly developed equipment is convenient for physically challenged people.

正社員には有給休暇を取る資格がある。

All the full-time employees are eligible for paid leave.

奨学金制度は当大学の交換留学生に必要なだ。(necessary)

The scholarship system is necessary for our exchange students.

仙台は七夕祭りで有名だ。(famous, notorious)

Sendai is famous for Tanabata Festival.

前置詞に主として from が用いられる形容詞

やる気のない子供たちは単に朝早く起きられないという理由だけで学校を休む。

Lazy children were often absent from school just because they were not able to wake up early in the morning.

ニートは社会から孤立し、疎外されがちである。

NEETs tend to be isolated and alienated from the society.

彼のボランティア活動はわたしたちのとは違っていった。(different)

His volunteer activities were different from ours.

スウェーデンの福祉政策はアメリカの福祉政策とはかなり違う。(distinct)

The welfare policy in Sweden is quite distinct from that of the U.S.

前置詞に主として in が用いられる形容詞

秋葉原では多くの若者がオンラインコンピュータゲームに夢中である。(absorbed)

Many young people are absorbed in on-line computer games in Akihabara.

南アフリカは天然資源にめぐまれている。(rich)

South African Republic is rich in natural resources.

日本の大学生は大学教育に必要な基礎学力にかけている場合がある。(deficient)

Japanese university students are sometimes deficient in basic academic skills necessary for

higher education.

仕事へのモチベーションはビジネスミーティングの成功には必要不可欠なものだ。(essential)

Motivation for our work is essential for successful business meetings.

前置詞に主として of が用いられる形容詞

竜巻が怖い。

I was afraid (fearful, scared) of the tornado.

子供たちもやがて市民としての社会的責任を自覚するだろう。

Children will be aware (conscious) of their social responsibility as a citizen.

会議での彼の長いスピーチに参加者たちはひどくうんざりした。

The participants were really bored (weary, tired, sick) of his long speech at the conference.

その地域は観光名所も多く文化施設も充実していた。

The area was full of tourist attractions and full-fledged cultural facilities.

人ごみの中では持ち物に気をつけてください。(careful)

Be careful of your personal belongings in the crowds.

前置詞に主として to が用いられる形容詞

彼らは日本の商習慣に慣れている。

They are accustomed to Japanese business practices. (accustomed)

多くの日本の中年女性が韓国のテレビドラマに夢中になっている。

Many Japanese middle-aged women are addicted to Korean TV dramas. (addicted)

花粉症ですか。(花粉に対してアレルギーがありますか。)

Are you allergic to cedar pollen? (allergic)

その団体は死刑に反対している。

The group is opposed to capital punishment. (opposed)

前置詞に主として with が用いられる形容詞

怒ってるの？

Why are you angry with me? (angry)

彼女は音楽の才能に恵まれていた。

She was blessed with talent for music.(blessed)

ジョンは宿題を片付けるのに忙しい。

He has been busy with his homework.(busy)

実験結果はウィリアムズ博士の理論と矛盾しなかった。

The experimental result was consistent with Dr. Williams' theory.(consistent)

うちの社員はインターネットプロバイダーには詳しいよ。

Our staff is familiar with Internet providers.(familiar)

2.10 英語過去分詞の形容詞化した使用 = 日本語の動詞による感情表現

英語においては「be + 動詞-ed 形」の形で人間（や一部の高等動物）の心理状態や感情を表す形が発達している。（下記例文参照）そのうちの多くは-ed 形の前に very を挿入することができるので、その-ed 形が過去分詞から形容詞化していることがうかがえる。本稿では、「be + -ed 形（他動詞の過去分詞）」の心理状態、感情表現が、他動詞の受動態なのか、それとも他動詞が形容詞化したものなのかの厳密な判別には立ち入らない。過去分詞が形容詞化しているか否かは、英語学的には興味深いテーマであるが、「形容詞を使って英語らしい英語表現をする」という目的のためには直接的に有効であるとは思われないからである。しかしながら、この表現形式は学習者が身に付けるべき重要な表現であると同時に、対応する日本語訳には「自動詞」が用いられる（受動態表現も不可能ではないが有標である印象を受ける。）ため、英語では形容詞だが日本語では動詞が用いられる表現形式としてここで扱うこととする。

学生は高等学校までの英語学習で、この種の感情表現には多く触れているため、まったく最初の部分から導入する必要はあまりない。この形式があったことを思い出させ、さらに日本語が自動詞表現になることを押えて日英表現の差を認識させることに重点を置く。繰り返しになるが、この形が形容詞表現なのか否かについては微妙な場合もあるので、ことさら形容詞表現として強く導入する必要はないかもしれない。学生の能力、反応、興味、レディネスなどを考慮したうえで、適宜導入すべきだと思う。

例（該当部分の日本語訳のみ添える）

We were thoroughly amused by his joke.

楽しんだ

He was clearly annoyed by their behavior.

いらいらした

She was ashamed of her current situation.

恥じた 恥ずかしく思った

We were all astonished by the news of her death.

驚いた

I was bored with his long talk about politics.

退屈した

Busy executives should not be bothered by trifling matters.

煩わされるべきではない（この場合は受動態が可能）

We are confused by his attitude.

戸惑う

She was absolutely delighted at the compliment he said.

喜んだ

He was very depressed about his blunder.

落ち込んだ

The president was deeply disappointed at your failure.

失望した

The scientists were discouraged the test result.

がっかりした

I was disgusted at the arrogant attitude of the official.

むかついた

I was somewhat fascinated his way of talking.

うっとりした 「魅せられた」という受動表現も可能

She was horrified at the news of her partner ' s accident.

ぞっとした

I was perplexed with the financial problem.

面食らった

The boss is not satisfied with what you ' ve done.

満足した

I was so scared of the twister.

怖かった

I am tired of the food in the restaurant.

飽きた

We were touched by his devotion to her.

感動した 「心を動かされた」も可能

His mother is worried about his future.

心配した

be + 動詞-ed 形は、上記感情、心理状態以外にも多様な表現が観察される。学生にとってはむしろこちらの方が「手ごわい」英語表現である。感情、心理状態のときと同様に、その自然な日本語訳には受動態表現は現れず、主として自動詞表現か、慣用句に近い固定的な言い回し（「使用中」「恩にきる」「飽和状態」など）が現れる。もちろん日本語の方から見た場合、英訳に必ずしも「be + 動詞-ed」を用いなければならないわけではないが、日英語の発想の差、言い換えれば、日本語の表現からは、それが be + 動詞-ed で表せる可能性があることに気づきにくい種類の文である。この種の文の英訳を授業で強く押し進めることは、学生を混乱させる可能性があるので、感情・心理状態表現以外にもこのような表現があることを紹介することにとどめる。

The thread is tangled.

糸がからまっている、からまった

The staff is really well-trained.

店員の教育が行き届いている。

The room is occupied.

この部屋は使用中だ。

Is this seat taken?

この席はあいていますか。

Your E-mail was all garbled.

君のメール全部文字化けしているよ。

She has been toilet-trained.

トイレのしつけができています。

一人でトイレに行けるようになりました。

I ' m afraid we ' re fully booked at the moment.

すみません、今あいにくと満席になっておりまして。

The commuter trains are always packed.

通勤電車はいつもぎゅうぎゅう詰めだ。とても混んでいる。

The database is finished.

データベースができた。

I ' m still undecided.

まだ迷っているんだ。

It ' s not focused.

写真がピンボケだ。

That ' s settled

よし、これで決まりだ。

I ' m indebted to you.

恩に着るよ。

I ' m self-employed.

自営業です

The market has been saturated.

市場が飽和状態です

2.11 英語 -ing 形の形容詞化した使用

動詞の -ing 形も形容詞、もしくは形容詞に近い形で機能する。以下に例を挙げるが、be + -ed が必ずしも受け身を表すわけではないように、be + -ing も現在進行形 = 今、顕在化した行動を行っている
最中 = を表すとは限らない。2.10 で扱った感情・心理状態を表す英語他動詞は、I was surprised at his
story. = His story is surprising to me. のように、その感情を経験している存在が主語 = -ed 形、その

感情を引き起こした対象が主語 = -ing 形、という対応を示し、後者がここに分類されるが、感情・心理状態以外にも形容詞化した-ing 形が用いられる例が散見される。これは、教室内では例文を提示するにとどめる。

The patent is pending.	特許出願中です。
You should be more understanding.	もうすこし物分りがよくてもいいのに。
He is good-looking.	ハンサムだ。いい男だ。
He 's lacking in experience.	彼は経験不足だ。
He 's annoying.	まったく彼には困ったものだ。
The air freshener is overpowering.	芳香剤がきつすぎる。
The flashy works were particularly appealing.	その派手な作品は特に目を引いた。
The new dress is very becoming on you.	その新しいドレスはあなたによく似合う。
Her example was inspiring to us all.	彼女が出した例はわたしたちの目を開かせるものだった。
The speech of Prime Minister is insulting to women.	首相のスピーチは女性にとっては屈辱的だ。

2.12 英語形容詞と漢語 + 「の」の対応

日本語のナ形容詞の多くは漢字二文字を音読みするもの（漢語起源）である。

ナ形容詞の例

安静	安全	遺憾	異常	異様	陰気	陰険	迂闊	鋭利	横着	横柄	横暴	臆病
温暖	穩健	温和	快活	過激	過剰	過大	可能	華麗	簡易	簡潔	頑丈	感心
完全	寛大	簡単	完璧	危険	貴重	希薄	奇抜	急激	窮屈	器用	凶悪	極端
気楽	均質	下品	軽快	軽率	敬虔	険悪	堅実	厳格	厳密	元気	健全	公正
広大	公平	幸福	巧妙	些細	残酷	残念	斬新	失礼	質素	素朴	邪魔	自由
重厚	従順	重大	柔軟	十分	主要	順当	純粹	詳細	正直	真剣	新鮮	慎重
精密	清貧	切実	新鮮	粗悪	壮快	壮絶	粗末	怠慢	単純	短気	緻密	重宝
痛烈	適當	透明	特殊	特別	鈍感	難解	軟弱	熱心	濃密	馬鹿	莫大	微妙
卑怯	病弱	敏感	貧弱	不運	複雑	不潔	不幸	不浄	物騒	無難	平易	平坦
平凡	偏屈	便利	法外	満足	見事	未熟	無益	無駄	無茶	無能	明快	明白
迷惑	面倒	猛烈	厄介	有害	有能	有名	余計	乱暴	立派	冷淡	劣悪	

漢字二文字を音読みする語の中には、他の名詞を修飾して先立つときに、ナ形容詞にすることができず、「ノ」を用いなければならないものがあり、(ノ = タイプと呼ぶ)両者の区別は一見かなり恣意的に見える。

たとえば、「極端」と「極度」、「純粹」と「生粹」、「不幸」と「不遇」、「平気」と「本気」、「有名」と「無名」の各ペアが限定用法で用いられる場合を考えると、「極端な」と「極度の」、「純粹な」と「生粹の」、「有名な」と「無名の」、「不幸な」と「不遇の」、「平気な」と「本気の」のように、前者はナ形

容詞として機能できるのに後者はできずに「の」が出現する。最初の3つのペアは類義語と考えられるし、平気と本気も同じように心持ちを表している。有名と無名は両極にあるわかりやすい反対語であるのに、このような違いがあることは大変興味深い。日本語母国語学習者は、直感的にナ形容詞とノ＝タイプとが判別でき、ほとんど無意識に両者を使用しているが、(この違いを通常はほとんど気づいていないが)それを英訳する段になると、状況が少し違ったものとなるようだ。

ナ形容詞は形容詞であることを比較的容易に認識できるが、「の」を使うものは助詞としての「の」に影響されて「の」の前の漢字二文字部分を「名詞」と直感的に判断してしまうことがある。「永遠の愛」を love of eternity と訳しても間違いとは言えないが、of + 名詞は日常生活で常に使われるものではないので注意が必要である。教室では以下の指示を与える

- (1) 学習者にノ＝タイプの存在を知らせる。日本語母国語話者は直感的にノ＝タイプがわかるので気づかせることに重点を置く。
- (2) 多くの辞書が「の」が付いた形での訳語や例文を載せているので、そこを見るように注意する。
- (3) 勘のいい言語的直観、理解力に優れた学習者には、ナ形容詞にしてもノ＝タイプにしても、日本語の漢語名詞は、名詞、ナ形容詞、ノ＝タイプの境界があいまいであることを説明してもよいが理解力が高くない学生にこれを説明し出すと却って混乱させることがあるので学生の力を見極めて判断する。注2
- (4) ただし、学習者の中に日本語母国語話者ではないものがいた場合、彼らにとってナ形容詞とノ＝タイプの判別は直感では難しく、別個の指導が必要となる。注3

以下に「の」を取るものの例を挙げる。

愛用	悪性	暗黙	幾多	異端	一時	一定	一般	一流	一連	今風	異例	内輪	永遠
永久	遠隔	応急	大型	大口	大手	海外	会心	架空	格段	過去	仮設	過疎	仮想
仮定	官製	既婚	既成	既存	生粋	既定	究極	狭義	共通	共同	極限	極度	緊急
禁断	空前	偶然	苦渋	決死	現役	現在	現実	恒久	公共	公式	硬質	公然	恒例
公立	互角	極秘	極貧	個別	最上	些少	酸性	市営	至上	自責	実際	至難	市販
地元	重度	従来	私用	正気	将来	少量	初期	初級	食用	所定	初老	新規	真空
新興	人工	新進	新設	人造	神秘	親身	水平	随意	垂直	生得	正義	灼熱	世俗
絶好	絶対	戦後	全能	全盲	全部	相互	即座	対極	太古	大抵	大半	大量	沢山
単独	短期	直近	通常	強気	定例	天然	当然	平等	特定	特有	独自	独身	匿名
土着	突然	二重	任意	博識	迫真	舶来	波乱	万全	半分	反対	万能	非常	必須
秘密	病気	標準	不意	不朽	不遇	不死	不治	普段	普通	不定	不動	不変	不滅
不毛	不慮	平時	平常	本気	本当	本来	末端	満員	慢性	未完	未婚	未必	民間
無限	無効	無言	無実	無償	無人	無数	無名	目上	目下	問題	有限	悠久	陽性
略式	良性	両方	臨時	類似									

暗黙の了解	tacit understanding
一流のレストラン	first-rate restaurant
永遠の愛	eternal love
海外の企業	foreign firm
架空の契約	fictitious contract
共通の話題	common subject
極度の不安	extreme anxiety
偶然の一致	accidental coincidence
現実の問題	real problem
現地の人々	local people
絶好のチャンス	perfect opportunity

これらの語に続く「の」には所有や同格といった意味はなく、「の」までの全体で、後続する名詞をナ形容詞に近い形で修飾している。また、名詞であれば単独で「が」や「を」を伴って主語や目的語になれるはずであるがそれが不自然であったり、「の」を「に」に変えると副詞として使えたりすることもあることから性質は極めて形容詞に近いと思われる。

* 互角が	* 互角を	互角に
* 相互が	* 相互を	相互に
* 即座が	* 即座を	即座に
* 突然が	* 突然を	突然に
* 普通が	* 普通を	普通に

注4

2.13 その他のいろいろなバリエーション

以下、小説、ドラマのセリフ、コマーシャル、インターネットサイトなどで見られた「日本語では形容詞が用いられていないが英語では用いられている」興味深い例を挙げる。

It ' s more compact.	よりコンパクトになりました。
It ' s economical.	節約になります。
He ' s so desperate.	彼は自暴自棄になっている。
Any time is fine with me.	いつでもけっこうですよ。
That ' s reasonable.	ごもっともです。
It ' s very handy.	使いやすい、扱いやすい。
It ' s collapsible.	折りたためます。
Is this patentable?	特許が取れますか。
It ' s hopeless.	希望が持てない。
That ' s unacceptable.	それは困ります。そんな言い方しません。
I ' m speechless.	呆れてものがいえない。
It ' s really stressful.	ほんとにストレスがたまるよ。
That ' s inconsiderable	配慮に欠ける、欠けている。

2.14 ハイフンを活用した形容詞

英語では、単語をハイフンで並べて、比較的自由に形容詞を作る傾向がある。

across-the-board, all-too-common, all-you-can-eat, black-and-white, bread-and-butter, carrot-and-stick, cat-and-dog, coal-and-ice, do-it-yourself, door-to-door, easy-to-remember, fair-haired, fast-growing, five-year-old, full-fledged, full-time, fund-raising, half-baking, hard-boiled, head-to-head, hen-pecked, high-income, in-depth, must-see, never-to-be-forgotten, round-the-clock, sink-or-swim, two-word well-known, would-be

Grammar Patterns 2 Colling Cobuild には-covered -dressed -equiped -infested -free -roofed -pronged -haired -looking -shaped -flavored -scarrd など 27 のグループ、約 300 のハイフンを用いた形容詞の語尾部分を掲載しているが、書き手がその場で作る即興的なものや、時代や社会の流れに沿って作られる新語も多く非常に多様で生産的な語群である。日本語母国語学習者がオリジナルのハイフン形容詞をわざわざ作る必要はないかもしれないが、この語群の重要性と特徴——極端な言い方をすれば、語をハイフンでつなげれば形容詞ができてしまう——を認識することは必要だと考える。

教室での説明の手順は以下の通り

- (1) 英語の中には数多くのハイフンでつながれた形容詞がある。見たことがあるか、気づいているか、と聞いて何人かを指名して自分の知っているハイフン形容詞を言わせたり、用紙を配って書かせたりする。その際辞書は使わせない。
- (2) Grammar Patterns 2 Colling Cobuild には-covered -dressed -equiped -infested -free -roofed -pronged -haired -looking -shaped -flavored -scarrd など 27 のグループ、約 300 のハイフンを用いた形容詞の語尾部分を掲載しているが、書き手がその場で作る即興的なものや、時代や社会の流れに沿って作られる新語も多く非常に多様で生産的な語群であることを解説。

- (3) 自分からわざわざ作る必要はないが、主要な使用頻度の高いものの利用価値は高いことを説明。
- (4) 使用頻度の高いものの例を挙げて説明する。副詞と動詞-ed 形 (beautifully-dressed, fully-equipped など) 名詞と-ed 形 (business-oriented, computer-focused など) -wise, -free, -proof, -conscious, -wide, -friendly, -shy など。
- (5) 前頁に列挙した語句を列挙して並べたタイプのハイフン形容詞を紹介する。食べ放題のレストラン = all-you-can-eat restaurant, 覚えやすいユーザーネーム = easy-to-remember username, 無難な政策 = coal-and-ice policy 一か八かの方法 = sink-or-swim method などは由来も含めて説明すると学生はかなり興味を示す。
- (6) 中には head-to-head のように副詞として用いられるものがあることを補足説明する。
- (7) そのあとハイフン形容詞を用いる語が含まれた英作文をし固定化を図る。

3. まとめ

本稿では、対応する日本語では形容詞を用いない、または用いにくい英語形容詞表現を中心に、それを TOEIC 450 点程度の英語学習者にどのように導入するかについて提案した。日英語間で同じ内容を自然な表現にした場合、同一の品詞が使われない例は数多くあるが、中でも、英語では形容詞なのに対し、日本語では動詞、もしくは名詞と助動詞を用いる例が目立つ。英語においては、名詞や動詞の語尾を変化させることにより広く一語の形容詞が作られるのに対し、日本語においては名詞や動詞の語尾を、決まった形で変化させることによって一語形容詞が広く作られるわけではないことがその理由の一つであろう。そのため、日本語においては本稿で扱ったような様々な方法で、英語一語形容詞に対応する表現を作る。以下にまとめる。

- ハガ文の一種と考えられる構文における名詞と形容詞の組み合わせ
- 外見上は存在文の (ように見える) 「～がある」「～がない」が用いられる表現
- 動詞の「～テイル」形を始めとする動詞表現
- 日本語形容詞が命令形を作りにくいことから生じる日英表現の差
- 「be + 英語形容詞 + 特定の前置詞 + 目的語」という並びと日本語動詞との対応
- 英語過去分詞の形容詞化した使用 = 日本語の動詞による感情表現
- 英語 -ing 形の形容詞化した使用
- 英語形容詞と漢語 + 「の」の対応
- その他のいろいろなバリエーションハイフンを活用した形容詞

従って、日本語母国語話者が日本語を英語にする際に、元の日本語には顕在化しない、また顕在化した場合でも単純な形ではない文法上の形容詞 (イ形容詞、ナ形容詞) を英語一語形容詞にして出力しなければならない。もちろん、日本語動詞表現をすべて英語一語形容詞にすることは得策とは思われないし、日英語ともに動詞表現が自然な例も数多くあるが、「こんなところで英語一語形容詞が使えるのか、

こういう英語形容詞表現もあったのか、こういう時には英語一語形容詞が使うといいのだ」と学習者が気づくことによって、いわゆる日本語に引きずられることのない自然な英語表現ができるようになる可能性は捨てるべきではない。筆者の個人的な体験だが、大学時代、英語プレゼンテーションの授業のあとで、他クラスのネイティブの教員が友人に「プレゼンは上手くいったか」という意味で “Was it successful?” と聞いた。「上手く行った」という日本語の動詞副詞表現から「go well」しか知らなかった当時のわたしは successful という形容詞が、しかも be 動詞と組みあわせた極めて単純な “Was it successful?” という言い回しが、プレゼンに限らず計画やイベント、ビジネス全般、うまく行ったかと聞くときに使えるとわかって、「ああ、英語の形容詞はこうやって使えるんだ」と新鮮に感じた覚えがある。その後もこのような英語形容詞の使い方にはその都度新鮮な驚きを覚えた。その記憶が本稿の始まりとなったと言ってよい。最後に、形容詞表現というトピックで第2章に記述した内容をまとめて取り上げることも可能であるが、広く英語表現を学ぶ要所所で、2.1 から 2.14 までをある種のスパイスのように定期的にまた不定期に導入して学習者に対する刺激として用いることも可能であることを申し添えておきたい。なお、今回は紙面の都合で、教材そのもの、また第2章に関しての学習者のアンケート回答、実際の解答例分析の掲載は見送った。次稿にゆずりたい。

<注>

注1

この種の構文はこの他にも数多くある。

卵は栄養価が高い。	Egg is nutritious.
チンパンジーは知能が高い。	A chimpanzee is intelligent.
五郎は背が低い。	Goro is short.
この種の事業は流動性が高い。	This kind of business is mobile.
佐藤先生は考えが深い。	Professor Sato is thoughtful.
君はまだまだ経験が浅い。	You are still naïve.
海の男は気が荒い。	A man of the sea is bad-tempered.
君の部下は態度が大きい。	Your man is arrogant.
社長は頭が硬くていやになるよ。	Our president is so stubborn. I don ' t like him.
君は気が小さいんだね。	You are timid.
彼は腰が低い。	He is modest.
彼は気前がいい。	He is generous.
この物語に出てくるおじいさんは欲が深い	The old man in this story is greedy.
兄貴は気が短い。	My brother is short-tempered.(impatient.)
彼は付き合いがいい方ではない。	He is not sociable.
彼女は感受性が強い。	She is very sensitive.
彼は好みがうるさい。	He is too particular.
彼女は性格が暗い。	She is gloomy.
彼女は自己主張が強い。	She is assertive.

~の(が)いい(よい)又は悪い

相性	愛想	頭	按配	威勢	意地	受け	腕	運勢	縁起
香り	風通し	記憶力	機嫌	気立て	気分	気前	きり	景気	効率
質	写真写り	消化	筋	すわり	調子	作り	体裁	手際	調子
仲	寝相	都合	日当たり	人	評判	分(ぶ)	風味	間(ま)	持ち
物分り	要領	割り							

~の(が)強い又は弱い

愛国心	意志	自惚れ	押し	我	感受性	気	虚栄心	警戒心	好奇心
正義感	力	日差し							

~の(が)多い又は少ない

雨 気 口数 苦勞 汁 人口 ストレス 敵 文句 実り 無駄

~の(が)高い又は低い

栄養価 確率 腰 背 知能 知名度 目 流動性

~の(が)深い又は浅い

考え 霧 経験 読み

注2

学生に以下の特徴を話す。

「の」を取る漢語名詞には(例外はあるが)以下の特徴があります。

- 最後の文字が「用」「性」「風」「例」「既」「現」「公」「個」「共」「今」「最」「絶」「先」「全」「耐」「大」「多」「中」「直」「当」「同」「二」「半」「普」「本」「別」「防」「毎」「民」「無」「来」「一」
- 最後の文字が「式」「性」「製」
- 時間、期間、時期、頻度を表す語
- 位置、場所を表す語
- 段階、等級を表す語

注3

日本語を外国語として学習している学習者の場合、直感でナ形容詞とノ=タイプを判別することは難しい。日本語学習者のために編纂された辞書の中にはこの区別を提示しているものもある。筆者がインタビューした中国人の日本語学習者10人(日本の大学での勉学にほとんど不自由のない上級者)は、いずれもこのナ形容詞とノ=タイプがあることに気づいており、その判別の難しさを訴えたが、注2に挙げるようなある程度の判別基準については知らず、一つ一つ覚えていた。

注4

日本語のナ形容詞とノ=タイプは名詞との境界があいまいなこともあり、それがたとえば Linda is honesty. Linda is honest. で前者が、リンダの性格を述べる通常の表現としてはおかしいということを知り、初級日本人学習者が気づけない一つの要因となっている。日本語では、ナ形容詞が述語になると「ナ」が消えてしまい、「リンダは正直だ」の「正直だ」は見た目に、名詞+断定の助動詞「だ」と変わらないように見えてしまうからである。またナ形容詞、ノ=タイプの中には「ナ」「ノ」を取り去っても、助詞「を」や「が」を伴って主語や目的語になれるものとそうでないもの、言い換えれば典型的な名詞としてふるまえるものとそうでないものがあり、それも学習者を混乱させる一因となっている。

参考文献

- [1] Altstiel, Tom and Grow, Jean (2010) Advertising Creative SAGE Publication, Inc.
- [2] Baker, Mark C. (2003) Lexical Categories Verb, Nouns, and Adjectives Cambridge Uni-

- versity Press.
- [3] Barnes, Cynthia A. (1996) *Manager's Portfolio of Model Memos for Every Occasion* Prentice Hall.
- [4] Collins Cobuild Grammar Patterns 1: Verbs (1996) Harper Collins Publishers Ltd.
- [5] Collins Cobuild Grammar Patterns 2: Nouns and Adjectives (1998) Harper Collins Publishers Ltd.
- [6] 英会話ビジネスひとこと辞典 (2001) DHC.
- [7] 英語動詞+名詞 コロケーション辞典 (1995) The Japan Times.
- [8] 英和翻訳表現辞典 (1998) 研究社.
- [9] 話すためのアメリカ口語表現辞典 (2007) 研究社.
- [10] 長谷部 郁子 (2005) 「日英語の非対格動詞の統語的使役化」 『レキシコンフォーラム No.1』 ひつじ書房.
- [11] Horn, Laurence R. and Ward, Gregory (edit.) (2006) *The Handbook of Pragmatics* Blackwell Publishing.
- [12] Hoshi, Hiroto (2005) "Functional Categories and Complex Predicates," *Lexicon Forum* No.4 ひつじ書房.
- [13] 乾 健太郎、藤田 篤 (2006) 「言い換え計算モデルの工学的実現への語彙意味論的アプローチ」 『レキシコンフォーラム No.2』 ひつじ書房.
- [14] 岩村 圭南、ブレーブン・スマイリー (2002) 「日常英会話 5000」 The Japan Times.
- [15] ヤンル別トレンド日米表現辞典 (1998) 小学館.
- [16] ジョフリー・N・リーチ 「意味論と語用論の現在」 理想社.
- [17] 影山 太郎 (1980) 「日英比較 語彙の構造」 松伯社.
- [18] 影山 太郎 (1995) 「文法と語形成」 ひつじ書房.
- [19] 影山 太郎 (編) (2008) 「日英対照 動詞の意味と構文」 大修館書店.
- [20] 影山 太郎 (編) (2009) 「日英対照 形容詞・福祉の意味と構文」 大修館書店.
- [21] Keizer Evelien (2010) *The English Noun Phrase* Cambridge University Press.
- [22] 研究社 ロングマン イディオム英和辞典 (1989)
- [23] 木村 哲也 (2001) 「英語らしさに迫る」 研究社出版.
- [24] Koester, Almut (2004) *The Language of Work* Routledge.
- [25] 小泉 保 (1996) 「言外の言語学」 三省堂.
- [26] 国際交流基金編 (1983) 「日本人の発想から英語の表現へ」 研究社.
- [27] 国立国語研究所 (1991) 「形容詞の意味・用法の記述的研究」 秀英出版.
- [28] 黒川 裕一 (2005) 「ネイティブとの会話をスムーズにする技術と表現」 ベレ出版.
- [29] Langacker, Ronald W. (2009) *Investigations in Cognitive Grammar* Mouton de Gruyter.
- [30] Langan, John (2000) *College Writing Skills* MacGraw-Hill Higher Education.

- [31] 町田 健 (1989)「日本語の時制とアスペクト」 アルク.
- [32] McCloskey, Deirdre N. (1998) *The Rhetoric of Economics* The University of Wisconsin Press.
- [33] Miyagawa, shigeru and Saito Mamoru (2008) *The Oxford Handbook of Japanese Linguistics* Oxford University Press.
- [34] 初山 洋介 (2001) 「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喻」『認知言語学論考 No.1』ひつじ書房.
- [35] 森田 良行・松木 正恵 (1989)「日本語表現文型」 アルク.
- [36] Muller, Andreas P and Kieser, Alfred (eds.) *Communications in Organizations* Peter Lang GmbH.
- [37] Murphy, Lynn M. (2010) *Lexical Meaning* Cambridge University Press.
- [38] ナロック・ハナコ (2007)「日本語自他動詞対の類型論的位置づけ」『レキシコンフォーラム No.3』ひつじ書房.
- [39] 本語文法辞典 上級編 (2008) The Japan Times.
- [40] 西山 佑司 (2007)「日本語名詞句の意味論と語用論」ひつじ書房.
- [41] 野村 益寛 (2001)「参照点構文としての主要部内在型関係節構文」『認知言語学論考 No.1』ひつじ書房.
- [42] 大堀 壽夫 (2004)「認知コミュニケーション論」大修館書店.
- [43] *Oxford Collocations Dictionary for Students of English* (2003) Oxford University Press.
- [44] *ログレッシブ英語逆引き辞典* (1999) 小学館.
- [45] Ramchand, Gillian C. (2008) *Verb Meaning and the Lexicon* Cambridge University Press.
- [46] 砂川 有理子 (2005)「文法と談話の接点」くろしお出版.
- [47] 白川 博之 (2002)「記述的研究と日本語教育」『日本語文法 1 巻 2 号』くろしお出版.
- [48] 杉田 敏 (2002)「決定版 やさしいビジネス英語 Vol. 1 2」NHK出版.
- [49] 田中 茂範・高橋 朋子 (1996)「わかる覚える使える 英単語ネットワーク 形容詞・編」アルク.
- [50] Tietze, Susanne, Cohen, Laurie and Musson, Gill *Understanding Organizations through Language* SAGE Publishers, Ltd.
- [51] 田村 智子 (2010)「同時通訳が頭の中で一瞬でやっている英訳術リプロセッシング」三修社.
- [52] 由本 陽子 (2005)「複合動詞・派生動詞の意味と統語」ひつじ書房.
- [53] 由本陽子、岸本秀樹 (2009)「語彙の意味と文法」くろしお出版.
- [54] Uriagereka, Juan (2008) *Syntactic Anchors on Semantic Structuring* Cambridge University Press.
- [55] 安井 稔 (編) (1989)「形容詞」『現代の英文法 7』 研究社.
- [56] 続・英和翻訳表現辞典 (1997) 研究社.